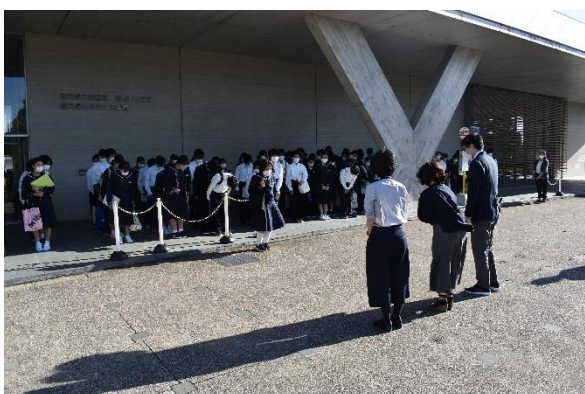


福井県ふるさと文学館・文書館研修に行ってきました

令和2年10月15日（木）、中学1年生は福井県ふるさと文学館・文書館での研修を行いました。

【ふるさと文学館研修】

展示ゾーン1では、福井ゆかりの作家と福井を描いた文学作品が紹介されていました。幼い頃から慣れ親しんだ加古里子さんの絵本に関する展示や、福井のバレーボール部を題材にした青春小説「2.43」の特集展示など、生徒は興味深く見学していました。また、秋季企画展「石川九揚の世界 書という文学への旅」の準備の様子も特別に見せていただき、書の面白さだけでなく企画展の準備の仕方も見ることができ、生徒達は「ぜひ開催の際にはぜひ見に来たい」と言っていました。



【福井県文書館研修】

展示室では、解体新書や朝倉義景の書状など歴史的古文書だけでなく、県の公文書（2002年SARSの時の感染症対策の公文書）、さらに高志高校の学校誌「緑葉」の創刊号も見せていただき、公文書館法に基づいて重要な公文書その他の記録を保存、閲覧、調査、研究する、文書館の多様で重要な役割を学んでいました。

そして普段は入ることを制限されている文書館の内部も見学し、燻蒸室では、古文書や福井県の公文書を虫（紙魚、シバンムシ）害から守るために、二酸化炭素を満たした燻蒸機に入れられていることを学びました。また、貴重書庫では書物に最適な環境とセキュリティが厳守されており、吸湿性の良い県内産の杉を使用した棚や、中性紙とよばれる紙で作られた保管箱など様々な工夫を教えてくださいました。文書館ではYouTubeチャンネルも開設されていることをうかがい、「帰ったら見てもっと知りたい」という生徒の声もありました。

